

清沢泐「スクラップブック」貼付著作一覧

2024年10月30日

松田 義男 編

清沢泐が遺したスクラップブック(池田まり子氏旧蔵)は、現在、安曇野市文書館が所蔵している。スクラップブック貼付記事は、関係記事(講演などの動向記事など)を含むが、多くは新聞掲載著作である。掲載紙および(または)掲載年月日の記載がないものも少なくない。掲載紙未詳の多くは『北米時事』と思われるが、「北米時事社同人諸兄」、「有馬大兄」(有馬純義)などの記事本文中の表現により掲載紙が『北米時事』と分かる場合もある。貼付記事の掲載紙・掲載年月日を可能な限り補訂し、著作一覧を作成した(一部、関係記事を含む)。英字新聞記事を貼付した一冊を除き、同館における「スクラップブック」の登録番号および文書名は「地域資料個票一覧 資料群：9999009 清澤泐資料 121 人物」のうち、以下の通りである。[]は貼付期間を示す編者注である。

- 125:スクラップブック(新聞 1923年11月10日～1926年)[1923.10.6～1926.5.21]
- 122:スクラップブック(新聞 1926年6月16日～12月19日)[1926.6.1～12.23]
- 124:スクラップブック(新聞 1927年1月5日～1930年7月)[1927.1.9-1930.8.26]
- 123:スクラップブック(新聞 1930年2月11日～1933年11月3日)[1930.10.23-1932.11.18]
- 127:スクラップブック(新聞 1932年11月14日～1933年5月2日)[1932.11.14-1933.5.4]
- 120:スクラップブック(新聞 1933年～1935年)[1933.6.29～1935.6.28]
- 42:スクラップブック(新聞記事の収集、1935年～1938年)[1935.8.30-1938.7.5]
- 128:スクラップブック「清澤記事 1938年～1942年」[1938.7～1942.12.20]
- 129:スクラップブック(新聞 説論 1933年2月3日～1939年1月29日)[『報知新聞』論説 1932.12.6-1939.1.25]

凡例

- ・表題、掲載紙、掲載年月日の順に記した。
- ・新聞における常設欄・特集・アンケートなどは[]に示した。特集・アンケートへの寄稿で無題のものは、特集・アンケート表題を著作表題とし、[]内に「 」で示した。
- ・無署名およびペンネームは《 》に記した。
- ・連載評論は初回掲載に一括して記し、原則として初回の表題を採用した。
- ・複数のテーマを取り扱っている時評や連載などの場合、小見出しを【 】に示したことがある。
- ・座談会等の実施年月日、場所、出席者を[]に注記した。その他、適宜、注記事項を[]に示した。
- ・拙編『清沢泐著作目録』に採録済の著作は「<済」と注記した。

登録番号 125 : スクラップブック(新聞 1923年11月10日～1926年) [1923.10.6～1926.5.21]

言論圧迫[「青山椒」]『中外商業新報』1923年11月2日<<有明生>><済
役人成金[「青山椒」]『中外商業新報』1923年11月4日<<太郎生>><済
鉄道省へ[「青山椒」]『中外商業新報』1923年10月6日<<一罹災通勤者>><済
消防恥ぢよ[「青山椒」]『中外商業新報』1923年11月9日<<ケー生>><済
世界の事件 火のついたドイツの内情『中外商業新報』1923年11月10日<<一記者>><済
震災が海外にドウ響いた『中外商業新報』1923年10月22日<<一記者>>【(一) 秩序的で機敏な米国】<済
東京と横浜と[「角笛」]『東京日日新聞』1923年9月28日<<信濃太郎>><済
卑劣、醜悪[「青山椒」]『中外商業新報』1923年10月11日<<ケイ生>><済
切捨御免[「青山椒」]『中外商業新報』1923年10月20日<<有明生>><済
何処へ[「青山椒」]『中外商業新報』1923年10月22日<<信濃太郎>><済
積極と消極政策の対陣 通過膨張か収縮か 英国で議論の中心となる『中外商業新報』1923年12月3～5日<<一記者>><済
不敬[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月6日<<憤慨生>><済
大石正巳[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月7日<<ケイ生>><済
井上蔵相に[「青山椒」]『中外商業新報』1923年11月12日<<信濃生>><済
あゝ島田君[「青山椒」]『中外商業新報』1923年11月18日<<山谷生>><済
英国の朝野にうづまく保護関税問題『中外商業新報』1923年11月21～23日<<一記者>><済
二等車廃止[「青山椒」]『中外商業新報』1923年11月23日<<ケイ生>><済
老人連あばる[「青山椒」]『中外商業新報』1923年11月27日<<信濃生>><済
単純な頭[「青山椒」]『中外商業新報』1923年11月28日<<非軍人>><済
三宅博士[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月8日<<三宅党>><済
廃娼[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月8日<<三砂生>><済
横浜市[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月9日<<横浜生>><済
甘粕の判決[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月10日<<門外漢>><済
無神論とお寺[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月14日<<非仏生>><済
復興院[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月14日<<中生>><済
低級な議員[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月15日<<憤慨生>><済
遺骨奪合ひ[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月19日<<中立生>><済
文士トラスト[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月20日<<非文士>><済
挑戦に応ぜよ[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月23日<<太郎生>><済
鉄道省の美事[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月24日<<一乗車客>><済
雑誌の改善[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月25日<<雑誌購読者>><済
御慶事と政治[「青山椒」]『中外商業新報』1923年12月27日<<有明生>><済
新年[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月1日<<信濃生>><済
婦人と鍵[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月3日<<節子>><済
古きを温めて 尾崎行雄氏『中外商業新報』1924年1月1、2日<<無署名>><済
鉄道と運動費[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月15日<<長野県、一地方民>><済
外人と宣伝[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月16日<<横浜山田憲二>><済
現内閣の賛美[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月17日<<一新人>><済
高橋君の芝居[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月18日<<清生>><済
政界革新[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月20日<<有明生>><済
無理をせぬ[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月24日<<山田生>><済
武藤山治氏に[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月25日<<ケイ生>><済
不快な郵便局[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月27日<<憤慨生>><済
階級打破[「青山椒」]『中外商業新報』1924年1月29日<<一青年>><済
民衆運動[「青山椒」]『中外商業新報』1924年2月1日<<傍観子>><済
議会解散[「青山椒」]『中外商業新報』1924年2月2日<<信濃生>><済
世界の名物 最後の勝利を信じた信じたウ氏『中外商業新報』1924年2月3日<<一記者>><済
長尾局長[「青山椒」]『中外商業新報』1924年2月4日<<一市民>><済

外債[「青山椒」]『中外商業新報』1924年2月5日<<穂高生>><済
 末広博士へ[「青山椒」]『中外商業新報』1924年2月20日<<一青年>><済
 思想善導[「青山椒」]『中外商業新報』1924年2月21日<<安曇生>><済
 総選挙のポスター戦術『中外商業新報』1924年2月23、24日<<無署名>><済
 少数党の解散権 田川大吉郎氏に質す『東京日日新聞』1924年2月24、25日<<済
 威張る外務省[「青山椒」]『中外商業新報』1924年2月26日<<一外交研究生>><済
 汽車中の訊問[「青山椒」]『中外商業新報』1924年2月28日<<江川生>><済
 十万円[「青山椒」]『中外商業新報』1924年3月2日<<プロ党>><済
 総監の蟹這[「青山椒」]『中外商業新報』1924年3月5日<<鶴見生>><済
 危険な謎[「青山椒」]『中外商業新報』1924年3月6日<<一平民>><済
 小松鉄相へ[「青山椒」]『中外商業新報』1924年3月9日<<有明生>><済
 剰余金支出[「青山椒」]『中外商業新報』1924年3月10日<<一青年>><済
 金の行衛[「青山椒」]『中外商業新報』1924年2月18日<<一銀行家>><済
 復活[「青山椒」]『中外商業新報』1924年<<非軍人>>2月18日<<済
 対露憤起[「青山椒」]『中外商業新報』1924年3月17日<<南安生>><済
 清浦内閣と其の後『東京日日新聞』1924年3月20、21日<<田川大吉郎>>[1924年2月24、25日付『東京日日新聞』の「少
 数党の解散権 田川大吉郎氏に質す」への反論]
 鈴木文治氏[「青山椒」]『中外商業新報』1924年3月28日<<批評家>><済
 失恋者の自殺[「青山椒」]『中外商業新報』1924年4月9日<<残された者>><済
 第一党争ひ[「青山椒」]『中外商業新報』1924年4月10日<<独立青年>><済
 外人を招聘せよ[「青山椒」]『中外商業新報』1924年4月11日<<清沢生>><済
 善導[「青山椒」]『中外商業新報』1924年4月12日<<信濃太郎>><済
 花見を排す[「青山椒」]『中外商業新報』1924年4月14日<<新帰朝者>><済
 専門委員会の報告は賠償解決の目標『中外商業新報』1924年4月14日<<済
 米国の排日的示威運動[社説]『中外商業新報』1923年4月15日<<無署名>><済
 海浜より一筆『新世界』1923年8月31日、9月1日<<在日本 新世界通信員>><済
 震災と朝鮮人『新世界』1923年11月6~9日<<済
 悲観される横浜 但し東京の復興は案外早からう『新世界』1923年11月24日<<新世界通信員>><済
 排日案の上院通過[社説]『中外商業新報』1924年4月17日<<無署名>><済
 世の中がいやになるほど米国には落胆した頼むは日米委員会の組織渋沢栄一子談『中外商業新報』1924年4月18日<<無署名>><済
 奇妙な花見論[「青山椒」]『中外商業新報』1924年4月19日<<新帰朝者>><済
 いや、 重大となった米国排日問題早わかり『中外商業新報』1924年4月20~22日<<一記者>><済
 日本より『新世界』1923年11月26、27日<<新世界通信員>><済
 日本より『新世界』1923年12月12、13日<<新世界通信員>><済
 臨時議会終る『新世界』1924年1月17日<<通信員清澤生>><済
 次代同胞の市民権と添田博士の意見『新世界』1924年1月23日<<新世界通信員>><済
 同胞諸君の義捐と配給『新世界』1924年1月24日<<新世界通信員>><済
 清浦内閣の不人気と政友会の分裂 不敬事件の真相『新世界』1924年2月2日<<新世界通信員>><済
 日本より『新世界』1924年3月26、27日<<済
 三浦の代弁[「青山椒」]『中外商業新報』1924年5月1日<<三浦四楼>><済
 高橋君と選挙[「青山椒」]『中外商業新報』1924年5月2日<<太郎>><済
 軍人の政治熱[「青山椒」]『中外商業新報』1924年5月17日<<豊科生>><済
 選挙終る[「青山椒」]『中外商業新報』1924年5月11日<<長野生>><済
 興津詣で[「青山椒」]『中外商業新報』1924年5月20日<<K生>><済
 日本より(一) 友あり『新世界』1924年4月18日<<済
 ウツズ大使[「青山椒」]『中外商業新報』1924年5月24日<<清沢生>><済
 後任大使?の如是排日論 シャーマン氏の演説『中外商業新報』1924年6月6日<<一記者>><済
 ウツズ大使本社を訪ひ日米親善を語る『中外商業新報』1924年5月24日<<無署名>><済
 生れ故郷の信州に来て『新世界』1924年5月5~7日<<済
 脳味噌の廻転 朝鮮釜山にて『中外商業新報』1924年7月2、3日<<済

時間に超越してゐる朝鮮の人たち しかしいかにも親孝行だ『中外商業新報』1924年7月7日<済
みじめな暮らしをする朝鮮の人たち 米に土をまぜて一など『中外商業新報』1924年7月8日<済
日本の方が物騒(丸山警務局長の云ひ分) 朝鮮の治安に就て『中外商業新報』1924年7月10、11日<済
さきへの朝鮮 これこそまじめに研究したい問題だ『中外商業新報』1924年7月12、13日<済
支那人と朝鮮人『中外商業新報』1924年7月14日<済
露支の真中に置れた日本商品『中外商業新報』1924年7月15~17日<済
行詰まりの満洲 邦人退転と支那人進出『中外商業新報』1924年7月28、29、31日、8月1日【(一)旅順の古戦場に立つて、
(二)強烈な国家主義的傾向、(三)ラツセルの予言、(四)調査委員会設置を提唱す】<済
支那議會を觀る『中外商業新報』1924年8月7日<済
見たまゝの支那『中外商業新報』1924年8月13、21~26日<済
商人の渡米は自由 日本に於る米国移民法の誤解『中外商業新報』1924年8月19、20日<無署名><済
日本商人は後退すれど支発展は多望『中外商業新報』1924年8月19日<済
朝鮮及び満支旅行 ハルビンにて『新世界』1924年7月28、29日<済
わが満洲政策の更新 専門委員会創設を提唱す『中外商業新報』1924年8月29日<無署名><済
吳の雄心張の深恨 蘇折戦雲の由来と今後の成行『中外商業新報』1924年8月29日<一記者><済
支那名士の印象『中外商業新報』1924年9月6~13、15~21日<済
「国粹」が何を誨へた[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月2日<信濃太郎><済
嘲笑病患者[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月4日<鶴見住男><済
女給取締りとチップ[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月7日<八面棒><済
張作霖の神頼み[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月9日<鶴見住男><済
西園寺公と白蓮[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月11日<鶴見住男><済
人間の正直さ[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月16日<八面棒><済
警察の『高等』と『下等』[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月21日<信濃太郎><済
林博太郎伯の貴院論[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月23日<信濃太郎><済
陸軍の活動[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月25日<信濃太郎><済
加藤首相に與ふ書[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月28日<信濃太郎><済
八重菊の内侍[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年10月30日<信濃太郎><済
英国の選挙と横線[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月1日<信濃太郎><済
英国の選挙界『中外商業新報』1924年10月24日<無署名><済
思想的に見て 英米独の選挙は政治的の争から階級の争へ『中外商業新報』1924年10月27日<無署名><済
米国の選挙と排日問題 大統領選挙戦の終了を喜ぶ『中外商業新報』1924年10月29日<無署名><済
英国の輿議議員 アスター夫人とアソール夫人『中外商業新報』1924年11月3日<一記者><済
婦人陵辱の流行[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月4日<信濃太郎><済
電車罷業と東京[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月6日<信濃太郎><済
「一旦緩急」の教育[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月9日<信濃太郎><済
栄冠を戴いた正副大統領ク氏とトー氏『中外商業新報』1924年11月6日<一記者><済
出来上つた保守内閣『中外商業新報』1924年11月8日<無署名><済
軍事教育[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月12日<信濃太郎><済
惨めな勤儉週間[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月15日<信濃太郎><済
大逆事件の後に[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月18日<信濃太郎><済
床次竹二郎君の頭[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月19日<信濃太郎><済
山本達雄男の金解禁論[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月21日<信濃太郎><済
手紙出すべからず[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月23日<信濃太郎><済
日本が軍備を撤廃したら[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月25日<信濃太郎><済
遣米大使の人選[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年11月28日<信濃太郎><済
歌舞伎座の建物[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年12月4日<信濃太郎><済
枢密院の不信[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年12月6日<信濃太郎><済
夫を追うて毒を仰いだ女[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年12月11日<信濃太郎><済
軍縮會議を開け[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年12月12日<信濃太郎><済
役人の首飛ぶ[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年12月30日<信濃太郎><済

対路同志会[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年12月16日<<信濃太郎>><済
ある友に答ふ[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年12月18日<<信濃太郎>><済
婦人の権利と男[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1924年12月26日<<信濃太郎>><済
風呂場の「敬神」[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年1月11日<<信濃太郎>><済
「家庭侵入」[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年1月13日<<信濃太郎>><済
Why Japan suspects maneuvers 『The Japan Times & Mail』1924年12月26日<<K. KIYOSAWA>><済
飯野吉三郎と「神様」[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年1月14日<<信濃太郎>><済
怪行者飯野と政界[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年1月17日<<信濃太郎>><済
政友会に望む[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年1月18日<<信濃太郎>><済
米人にもこの言あり 訳の分かつたオーエン氏『中外商業新報』1925年1月11日<<無署名>><済
米国々務長官の更迭 ヒューズ氏の辞職を惜む『中外商業新報』1925年1月13日<<無署名>><済
在留同胞の陳情委員『新世界』1924年12月8日<<新世界通信員>><済
為替の下落から見た日本経済界の説明『新世界』1924年12月13~15日<<済
前座役 豊橋 名古屋行『中外商業新報』1925年2月9~11日<<信濃太郎>><済
普選、加藤、タイム[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年3月31日<<信濃太郎>><済
政友本党の正体[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月1日<<信濃太郎>><済
政友会の内輪揉め[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月2日<<信濃太郎>><済
瓜の蔓には瓜[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月5日<<信濃太郎>><済
在米邦人を罵る(余を密告したる人に答ふ)『新世界』1925年2月19、20日<<済
帝国議会傍聴記『新世界』1925年2月21、22日<<済
米国海軍の大演習と日本の態度『新世界』1925年2月23~26日<<済
高橋是清君に呈す[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月7日<<信濃太郎>><済
政友会の安芝居[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月8日<<信濃太郎>><済
「現役だから」[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月10日<<信濃太郎>><済
財政上の危機に立つ仏国『中外商業新報』1925年4月11日<<無署名>><済
エリオ氏の失脚『中外商業新報』1925年4月12日<<無署名>><済
手紙と金貨と[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月18日<<信濃太郎>><済
日本名物[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月19日<<鶴見住男>><済
異身同体の婚礼話[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月21日<<信濃太郎>><済
「沿道の広告」の時代[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月22日<<信濃太郎>><済
「何も存ぜぬ」大臣[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月23日<<信濃太郎>><済
結束と内輪揉め[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月26日<<信濃太郎>><済
久野女史の自殺[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月24日<<信濃太郎>><済
田中都吉氏に呈す[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月25日<<信濃太郎>><済
明治天皇の婦人観[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年4月30日
極右の集団 警視庁[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月5日<<信濃太郎>><済
犬養の政友会入り[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月7日<<信濃太郎>><済
少数が勝った話[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月8日<<信濃太郎>><済
奢侈税か金儲か[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月10日<<信濃太郎>><済
犬養を葬るの辞[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月13日<<信濃太郎>><済
不敬漢[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月16日<<信濃太郎>><済
「足袋の名所」『中外商業新報』1925年5月12日<<信濃太郎>><済
両將軍喋る[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月17日<<信濃太郎>><済
女の国『中外商業新報』1925年5月15~18日<<一記者>><済
早仕舞ひの角力店[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月19日<<信濃太郎>><済
宋の農夫の話[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月20日<<信濃太郎>><済
支那の騒動と車夫の話[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年6月17日<<信濃太郎>><済
肥えた人と痩せた人[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年7月1日<<信濃太郎>><済
ある夜の電車[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年7月2日<<信濃太郎>><済
新思想家の文章[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年7月9日<<信濃太郎>><済

政治家の知識[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年7月10日<<信濃太郎>><済
華族と平民[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年7月18日<<信濃太郎>><済
無神論者の淋しみ[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年7月17日<<信濃太郎>><済
華族と平民[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年7月18日<<信濃太郎>><済
排日論者に答ふ「米国より日本へ」を読む『中外商業新報』1925年7月13、14、16、17、19日<済
佐々木勝ち、島田敗る[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年7月25日<<信濃太郎>><済
犬養の受諾は当然[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年7月30日<<信濃太郎>><済
政友会の党首取換[「故国政界近況」]『新世界』1925年4月26日<済
日本雑信『新世界』1925年5月19、20日<済
北京で問題の太田参事官[「満鮮遊記」]『新世界』1924年9月3、4日<済
A Reply to America's Message to Japan、掲載紙・年月日未詳<<RETSU KIYOSAWA>><済
資本主義で行く米国の労働運動 労働組合の内容と近時の傾向『中外商業新報』1925年6月29、30日、7月2日<<無署名>><済
順当に進展した政局[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年8月4日<<信濃太郎>><済
少女の外人射撃[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年10月3日<<信濃太郎>><済
双方を笑殺しろ[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年10月2日<<信濃太郎>><済
支那の騒動と日本[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年10月23日<<信濃太郎>><済
金と馬玉祥[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年10月24日<<信濃太郎>><済
会議で日本の出足よし[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年10月28日<<信濃太郎>><済
視察団に同伴して『中外商業新報』1925年9月8日<済
視察団同行記 釜山から京城へ『中外商業新報』1925年9月12日<済
視察団同行記 京城より『中外商業新報』1925年9月13、14日<済
視察団同伴記 京城より平壤へ『中外商業新報』1925年9月18日<済
視察団同伴記 奉天から大連へ『中外商業新報』1925年9月21日<済
視察団同伴記 大連にて『中外商業新報』1925年9月27日<済
視察団同伴記 さらば大連よ『中外商業新報』1925年9月28日<済
視察団同伴記 欧露七支那三『中外商業新報』1925年9月29日<済
視察団同伴記 秘密の講演『中外商業新報』1925年9月30日<済
視察団同伴記 ハルピンの夜『中外商業新報』1925年10月1日<済
視察団同伴記 汽車より見たシベリア『中外商業新報』1925年10月3日<済
視察団同伴記 高価な旅券『中外商業新報』1925年10月7日<済
視察団同伴記 ウラジオへ『中外商業新報』1925年10月2日<済
視察団同伴記 ウラジオの旅館『中外商業新報』1925年10月4日<済
視察団同伴記 ウラジオの夜『中外商業新報』1925年10月5日<済
視察団同伴記 不快に感じた点『中外商業新報』1925年10月6日<済
視察団同伴記 敦賀から解団まで『中外商業新報』1925年10月8日<済
愈々けふから関税会議が開かれる『中外商業新報』1925年10月26日<済
中橋君の陰謀[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年10月29日<<信濃太郎>><済
少数が勝った話[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年5月8日<<信濃太郎>><済
見送り客にもまれて[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年10月30日<<信濃太郎>><済
模範巡査の放火[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年10月31日<<信濃太郎>><済
海軍拡張は非[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年11月5日<<信濃太郎>><済
海の彼方『中外商業新報』1925年11月13～19、21、22日<済
米国の農業よ満洲へ行け 太田公使が演説[「東京便り」]『新世界』1925年11月6日<済
支那の暴動沙汰[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年12月4日<<信濃太郎>><済
おれの「博士」号[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年12月6日<<信濃太郎>><済
わが国の満蒙政策 根本的改造の必要 調査委員会新設の提唱『中外商業新報』12月5日<済
愚にして直なる者[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年12月15日<<信濃太郎>><済
鶴見の土工騒動[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年12月25日<<信濃太郎>><済
叛将郭松齡 拳兵から没落まで 郭氏滅びても東三省まだ樂觀を許さず『中外商業新報』1925年12月26日<<一記者>><済

浜口君のロジック[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年12月24日<<信濃太郎>><済
 「賀正」[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年1月8日<<信濃太郎>><済
 大使の暴行[「鉄箒」]『東京朝日新聞』1926年1月14日<済
 再び大使事件[「鉄箒」]『東京朝日新聞』1926年1月15日<<東朝社会部一記者>><済
 沈み行く大英帝国(五)トロツキー氏の英国観『中外商業新報』1926年1月16日[貼付記事に削除の意味の×を付す]
 田中男の借金事件[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年1月17日<<信濃太郎>><済
 男装の川島芳子[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年12月23日<<信濃太郎>><済
 小役人国を誤る[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年1月16日<<信濃太郎>><済
 満洲出兵[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1925年12月19日<<信濃太郎>><済
 斎藤総督と語る『中外商業新報[夕刊]』1925年9月15日<済
 仏内閣総辞職の事情『中外商業新報』1925年10月29、30日、11月1日<<一記者>><済
 沈み行く大英帝国『中外商業新報』1926年1月11、13～19、21日【英国産業界の煩悶、財産だった石炭鉄の減少、食糧輸
 入国の悲哀、有名なページ氏の予言、トロツキー氏の英国観、本国を離れつつある属領、前途を楽観する者の論拠、偉
 大なる復興力と前途、英国民は沈み行かず】<<一記者>><済
 戦争根だやし決して不可能ではない[ラジオ放送「国際講話 戦争と平和」、掲載紙未詳、1926年2月7日<済
 剛堂加藤伯を葬る[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年1月30日<<信濃太郎>><済
 行田の諸君に『行田評論』1926年1月28日<済
 国際聯盟の理事国問題 果して何うなるか『中外商業新報』1926年3月11日<<一記者>><済
 議会終る[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年3月27日<<信濃太郎>><済
 二人一体の後藤子[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年4月11日<<信濃太郎>><済
 巨頭の召喚[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年4月13日<<信濃太郎>><済
 大臣の支那旅行を勧む[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年4月15日<<信濃太郎>><済
 公娼を廃止せよ[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年5月1日<<信濃太郎>><済
 如何にすべきかー日本の通貨 ストックホルム大学教授グスタフ・カツセル『中外商業新報』1926年4月29、30日、5月
 1、2日【(一)、(二)、(三)日本の人為的為替維持、(四)日本のとるべき二つの方法】<<信濃太郎>><済
 田中総裁に呈す[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年5月14日<<信濃太郎>><済
 思想を自由に市場に出だせ[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年5月16日<<信濃太郎>><済
 何故の連立内閣ぞ[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年5月19日<<信濃太郎>><済
 六人を殺した女[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年5月21日<<信濃太郎>><済
 国家総動員[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年5月2日<<信濃太郎>><済
 日支露の三角関係 満蒙を中心に『中外商業新報』1926年4月24～28日<<一記者>><済

登録番号 122 スクラップブック(新聞 1926年6月16日～12月19日)[1926.6.1～12.23]

個人の自由と宗教『東洋大学新聞』1926年6月16日<済>
 若槻首相[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年5月27日<<信濃太郎>><済
 岡田文相と宗教法[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年6月1日<<信濃太郎>><済
 市長投出しと選挙[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年6月9日<<信濃太郎>><済
 若槻首相の論理[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年6月17日<<信濃太郎>><済
 英国大罷業後日物語『中外商業新報』1926年6月13～18日<<一記者>><済
 英国人の観たる米国繁栄の秘密 最近発表された二報告書『中外商業新報』1926年6月2、5、6、8～10、12日<<無署名>><済
 名前[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年6月24日<<信濃太郎>><済
 四千億ドルに上るといふ米国々富の解剖 新たに発表された統計『中外商業新報』1926年7月4～6日<<無署名>><済
 流行の人口問題[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』1926年7月13日<<信濃太郎>><済
 英国の自由党騒動 ロイド・ジョージ氏とアスキス氏との確執『中外商業新報』1926年7月16～19日<<一記者>><済
 米人は欧人に何故嫌はれるか『中外商業新報』1926年8月2日<<一記者>><済
 興亡の岐路に立つフランスの危機 仏貨惨落と政局への影響『中外商業新報』1926年7月22～26日<<一記者>><済
 私の希望は金ではない感謝である 二年間の俸給を突返した米人スミス氏の話『中外商業新報』1926年7月31日<<一記者>><済
 アメリカの生活費調『中外商業新報』1926年8月8、9日<<無署名>><済
 張作霖とムソリニ経済原則を逆に行く人『中外商業新報』1926年8月12日<<無署名>><済

アジア民族会議の内輪話『中外商業新報』1926年8月13～15日<<一記者>><済
カナダ政変物語『中外商業新報』1926年8月16日<<一記者>><済
不愉快なる言議 米労働局長の演説『中外商業新報』1926年8月21日<<無署名>><済
東京にて『北米時事』1926年8月10、11日<済
英国の悩 何うするか 今後の対支策『中外商業新報』1926年9月10～12日<<一記者>><済
遠乗り 市の事業を見る『中外商業新報』1926年5月25、26日<<信濃太郎>><済
海外時事『中外商業新報』1926年12月8～23日<<一記者>>【1 アメリカの禁酒法案是非 次の選挙がその分れ目、2 経
済的に全欧州の連盟 形成の機運漸く熟す、3 案外手堅い支那の広東政府 日本はこれを何うする、4 炭坑争議からスト
ライキ否認論 英国が新たに産んだ思想、5 フラフラと出た日米戦争の噂 油田疑獄の引き合に、6 何としても支那の感情緩
和が大事 英国エコノミスト誌所論、7 よいか悪いか労働五日制度 フォード君の投げた問題、8 片づいた独逸の軍備監督
問題 平和気分を満たした欧州、9 さらけ出された労働党内訃 畢竟は経済上の問題、10 新たな世界の傾向 国際協調主義
鶴見氏の新著を読む、11 今後何うする 張作霖の態度並びに日本の対策、12 剰余金が却て政界の問題 金の有り余る米
国の話、13 米国の金権が欧州を支配す 戦債問題と仏米両国、14 ドイツ内閣は何故辞めたか 小党分立の余弊から、15 人
口の増殖と食糧の生産 調査する経済会議、16 列国の足並が乱れた関税会議対策 独り悦に入るは支那】<済

登録番号 124: スクラップブック(新聞 1927年1月5日～1930年7月)[1927.1.9～1930.8.26]

列国に手を焼かせる支那の態度 今後は果して何うなる『中外商業新報』1927年1月9、12、13日<<一記者>><済
所謂不平等条約を外相は何うする一議会の演説を聴いて不審に思ふまゝに『中外商業新報』1927年1月20日<<一記者>>
<済
国民政府の顧問 ボロヂンとは何人 彼れと会見した米記者の印象『中外商業新報』1927年1月26日<<無署名>><済
対支風雲 相も変らぬ日本の遣り口 英国の出兵騒ぎと比べて今度は北方が見えぬ外務省『中外商業新報』1927年1月28
日<<一記者>><済
検閲と官憲[「鉄箒」]『東京朝日新聞』1927年5月10日<済
思想と金の勘定[「同人随筆」]、掲載紙未詳、1927年<済
『太平洋問題』[「読書ページ」]『東京朝日新聞』1927年2月3日<済
昭和二年のアメリカを見る[「雑報 一九二七年の世界の大観」]『官報』303～326 付録、1928年1月4、11、18、25日、2月
1日<<国際聯盟協会>><済
元日の朝『新世界』1927年1月20～22日<済
ラッセルの『産業文明の前途』[「書評」]『東京朝日新聞』1928年5月25日<済
日本人とユウモア『現代ユウモア全集 第六巻 明るい人生 佐々木邦集 月報』現代ユウモア全集刊行会、1928年6月5日
<済
階級闘争、掲載紙未詳、[1928年]<済
国際問題と学生の関心『東洋大学新聞』1928年6月25日<済
アメリカの選挙の話[ラジオ講演]『報知新聞』1928年7月4日<済
商相に問ふ[「鉄箒」]『東京朝日新聞』1928年9月18日<済
一平君のユウモア、掲載紙未詳・年月日未詳
故国より『羅新報』1928年7月8日<済
Who killed Chang? Japan should establish her innocence by a full inquiry、掲載紙・掲載月日未詳<<Retsu
Kiyosawa>>[張作霖は誰が殺したか(『中央公論』43-10、1928年10月1日)英訳]
動是進歩『中外日報』1928年12月14～16日<済
暴露政策[「鉄箒」]『東京朝日新聞』[1928年]<済
けふ就任の米国大統領[ラジオ放送]、掲載紙未詳、1929年3月4日<済
二十三の剣に刺されてシーザーの哀れな死 二千年前の三月十五日のこと 子供の時間に清沢瀧氏がお話[ラジオ放送]、掲
載紙未詳、1929年3月15日<済
シーザーの最期[ラジオ放送]、掲載紙未詳、1929年3月15日<済
室伏氏のアメリカ[書評]『東京朝日新聞』1929年3月29日<済
親の立場から「学習全集」について『大阪毎日新聞』1929年4月15日<済
大統領フーバー就任に際し[3月4日ラジオ放送]『新世界』1929年3月29日～4月1日<済
批難する人に答へて『やまと新聞』1929年5月16日<済[この記事の前後に、清沢および朝日新聞を攻撃する『やまと
新聞』記事多数あり]
Townsend Harris' reputation upheld『The Japan Times & Mail』1929年8月18日<済
蜂の子飯、掲載紙未詳、1929年9月15日<済

シアトルに来て『北米時事』1929年8月26日<済

シアトルの感想『北米時事』1929年8月27日～【1小見出しなし、平凡なる感想と改題】、2 米国帰りの新人種、3 支那飯とステッキ、4 精神文明、物質文明、5 時計と靴と速力、6 貸し自動車の値段【9月4日】、7【未詳】、8 シアトルと排日、9 子供の数の問題、10 女の米国、男の米国、11 目立つ競争制度】<済

米国不景気の特異性『中外商業新報』1930年9月5、7、9、11日<済

[以下、北米講演関係記事数点]

本社主催清沢氏講演会 去土曜夜テラー国校にて 農村日本と米国との比較『北米時事』1929年9月16日【9月14日、北米時事主催第二回講演会で「農村日本と米国との比較」と題して講演(於テラー国校)、16日、「昭和日本の遠望」と題して講演(於国校ホール)】

マルキシズムからアメリカニズムへ 『昭和日本の遠望』と題し清沢冽氏の講演【9月16日、日会教育部主催講演会で「昭和日本の遠望」と題して講演(於タコマ国校ホール)】『北米時事』1929年9月17日

オーバンに於ける日米人の親善関係 清沢氏を歓迎する午餐会へ市長はじめ有力者の出席『北米時事』1929年9月21日

清沢氏の来市と講演会 本社有馬氏及び山口氏同伴『北米時事』1929年9月22日【有志晩餐会に招かれ(於ワシントン楼)、のち、日本人青年会主催の講演会で「在米同胞と日本」と題して講演(於レッドマン講演会場)】

成功に終わった清沢氏講演(ヤキマ廿三日)『北米時事』1929年9月24日

清沢冽氏の講演 さく夜ス市で盛会 日曜はヤキマとワトバでス市では青年会の実力『羅府新報』1929年9月29日

清沢冽氏が昭和日本を語る語校ホールで今夜八時講演『加奈陀日日新聞』1929年9月28日

婦人会にて清沢氏講演『北米時事』1929年10月4日

地方旅行 ヤキマ、スポケーンに『北米時事』1929年1月27日～4回連載<済

田中総裁を想ふ『北米時事』1929年9月30日<済

ランダス夫人に逢ふ『北米時事』1929年10月4日～3回連載<<信濃太郎>><済

華大の東洋学部 第二世に対する希望と感想『北米時事』【1929年10月】<済

日本人と桜『北米時事』1929年10月16日～4回連載<済

第一世と第二世『北米時事』1929年10月25日～3回連載<済

汽車中にて『北米時事』1929年10月31日<済

アメリカの景気はどうなる 根柢は健全だが一抹の暗雲『中外商業新報』1929年11月16～18日<<桂溪生>><済

米国株界 大動乱と驚くべき投機熱『中外商業新報』1929年11月4、5、7、9日<<桂溪生>><済

新聞さまざま『新聞之新聞』1929年11月1日<済

アメリカの対日投資観 米国一実業家と語る『中外商業新報』1929年12月4、5、7日<<桂溪生>><済

離婚の大量生産『北米時事』1929年12月13日<済

軍縮会議の序曲 ニューヨークにて『中外商業新報』1929年11月12～14日<<三水生>><済

日本の産業と米国 米国実業家の投資観 在桑港、掲載紙未詳、【1929年11月】4回連載<<一経済記者>><済

旅空から『羅府新報』1929年12月5～7日のうち6日のみ<済

離婚市場を観る『北米時事』1929年11月20日<済

米国の産業動員大統領フーバーの統制案、掲載紙未詳、【1929年11月】<<一経済記者>><済

米国経済の解剖 所謂繁栄恐慌の意義、掲載紙未詳、【1929年11月】<<一経済記者>><済

両全権を迎へて 飽迄も政治家的の若槻氏 生一本の軍人肌の財部氏『日米[The Japanese American News]』1929年12月15日<済

洋食には飽いた飽いたの全権 米の飯に罐詰料理で舌鼓 十五日朝シカゴ着當日の日程『日米[The Japanese American News]』1929年12月15日<済

あはたゞしい雪の車窓に倚り往年の想出を語る若槻全権 白聖館の賓客とはならぬ予定『日米[The Japanese American News]』1929年12月16日<済

両全権を迎へて 飽迄も政治家的の若槻氏 生一本の軍人肌の財部氏『日米[The Japanese American News]』1929年12月16日<済

沙港・桑港・羅府 そして独身婦人の問題『北米時事』1929年12月9日～3回連載【『アメリカを裸体にす』収録】<済

政治家的な若槻氏軍人的な財部氏 シアトルに於ける第一夜、掲載紙未詳、1929年12月12日<済

アメリカに居ても日本人は日本人だ 財部全権心から深く感動『北米時事』1929年12月16日<済

米軍人と軍縮会議 両全権の活動振り『北米時事』1929年12月21日<済

華府での若槻全権 日本の立場と要求を声明『北米時事』1929年12月23日<済

倫敦見物『北米時事』1930年1月28日～<済

全権に随行して オリンピック号にて『北米時事』1930年1月23日～<済
 会議に懸る期待 英国皇帝の御演説放送『北米時事』1930年1月16日～<済
 冷静に歓迎された若槻首相の一行―会議前の冷たい空気―[「軍縮会議便り」]『中外商業新報』1930年2月2日<済
 仏国の態度が前途の悲観材料―会議前の冷たい空気―[「軍縮会議便り」]『中外商業新報』1930年2月3日<済
 倫敦会議の矛盾 戦争を仮定する軍備縮小『北米時事』1930年1月17日～<済
 ロンドン会議に列して『羅府新報』1930年1月24～26、28～31日、2月1、2、4、5日<済
 各国全権出揃ふ―ロンドン海軍会議1930年2月3日～<済
 軍縮の事ども『羅府新報』1930年2月6、7日<済
 倫敦会議の開会日 英国皇帝陛下の御演説『北米時事』1930年2月6日～<済
 英国議會を觀る『中外商業新報』1930年2月21、25日<済
 前途多難の軍縮會議『中外商業新報』1930年2月27、28日<済
 ロンドン會議雜話『羅府新報』1930年2月28日、3月1、2、4～7日<済
 藤岡さんの退社『羅府新報』1930年8月9日<済
 七割比率にこびり付く日本全権『日米[The Japanese American News]』1930年1月29～31日、2月1、2、4～9日<済
 軍縮會議 英米の提携？日仏の接近？伊は両者に秋波『日米[The Japanese American News]』1930年3月4～9、11日<済
 倫敦會議と米國 英米相擁して踊る舞台、掲載紙未詳、1930年3月1日～<済
 倫敦に来てマルクスの墓に詣でるの記『新世界』1930年3月14、15、17日<済
 欧州大陸行脚『中外商業新報』1930年3月29、30日、4月1日<済
 欧州見物 欧州大陸を大別して二つ『北米時事』1930年4月21日<済
 欧州見物 ボンベイの死都を見る『北米時事』1930年4月4日<済
 欧州見物 見るのはお寺と繪画『北米時事』1930年4月11日<済
 マクドナルドと語る『羅府新報』1930年3月22、23、25～30日、4月1～3日<済
 武装して伊太利旅行[「三人男の三様だより 清沢―雪舟―中村」]『日米[The Japanese American News]』1930年4月13日<済
 日本に帰へらずに直接桑港に赴任する ニケ月後には着桑すると若杉新総領事談[ロンドン13日特電]『日米[The Japanese American News]』1930年4月13日<済
 『僕はヤンキーボーイだよ』 我等の総領事若林さんの事ども『日米[The Japanese American News]』1930年4月25～27日<済
 イタリアの独裁者 ムツソリーニと語る『北米時事』1930年5月1日<済
 費府のシアトル会 井出ドクトル夫妻を訪ふ『北米時事』1930年5月15日<済
 米國株界の恐慌とその後『中外商業新報』1930年5月21～23日<<桂溪生>><済
 オーストリアの産業議會の組織 中欧の新しい試み『中外商業新報』1930年5月15～18日<<一旅客生>><済
 米國の景氣上向く『中外商業新報』1930年6月12日<<桂溪生>><済
 米國上院の海軍條約討議『中外商業新報』1930年6月12日<済
 移民法改正提案者ジョンソン氏と語る『中外商業新報』1930年6月13、14日<済
 欧米を漫遊して『羅府新報』1930年6月26～29日、7月1日<済
 旅から旅へ 日本を出て早や十ヶ月『北米時事』1930年6月21日<済
 レニア行き『北米時事』1930年7月9日～<済
 山中部を語る『日米[The Japanese American News]』1930年6月25～28日<済
 米國景氣恢復の期、掲載紙未詳、1930年7月15日<<一經濟記者>><済
 汽車泥棒『北米時事』1930年[7月]<済
 ポ市の憶ひ出『北米時事』1930年[7月]<済
 ポ市より『北米時事』1930年[7月]<済
 加州廻り『日米[The Japanese American News]』1930年7月30、31日、8月7～10、12～23日[第1、2回のみタイトルは「北加廻り」、全文貼付ではない]<済
 自動車の魔術『中外商業新報』1930年8月26～30日のうち26日のみ<済

登録番号 123: スクラップブック(新聞 1930年2月11日～1933年11月3日)[1930.10.23-1932.11.18]

生糸の行詰と対策 米國から觀た日本生糸問題『中外商業新報』1930年10月23～25日<済

聖林に光る日本舞踊家、掲載紙未詳、[談] [1930年] < 済
 婦朝雑感『北米時事』1930年10月15日記<5回連載> < 済
 船中雑感リオデジャネイロ丸にて、掲載紙未詳、1930年11月15日～<4回連載> < 済
 帰国雑記 東京にて、掲載紙未詳、1930年11月20日～<3回連載> < 済
 日本に帰つて『羅府新報』1930年12月16～21、23～25、27、28、30日、1931年1月5日 < 済
 反対論も読め[「農閑期に何を讀むべきか」、掲載紙未詳、1931年 < 済
 議会浄化一法[「鉄箒」]『東京朝日新聞』1931年2月21日 < 済
 凄みのないムジソリニ 労働と規律があるだけだと云ふ 米国は何もかも機械化して仕舞つた国 平凡だつた私の世界漫遊[講演概要]、掲載紙未詳、 < 済
 寝かし電報[「鉄箒」]『東京朝日新聞』1931年1月8日 < 済
 電報の利用[「鉄箒」]『東京朝日新聞』1931年1月10日《通信省電務局》 < 済
 世界を旅して『新世界』1931年2月27、28日、3月1～5日 < 済
 信州より 片倉温泉にて[2月8日筆]『羅府新報』1931年3月5～7日 < 済
 政界夜話 民政党国家老のお家騒動『羅府新報』1931年1月6～8日 < 済
 麻雀と箱庭ゴルフと不景気『羅府新報』1931年2月1～3日 < 済
 洋行帰り赤毛布『羅府新報』1931年4月22～24日 < 済
 東京雑信、掲載紙未詳、[1931年]3月9日 < 済
 東京より、掲載紙未詳、[1931年]3月19日～<2回連載> < 済
 アメリカの新聞、掲載紙未詳、[1931年]4月13日～<5回連載> < 済
 訪米飛行のお先棒役『日米[The Japanese American News]』1931年4月29日 < 済
 アラスカ土人の話『報知新聞』1931年6月1～3日 < 済
 雪と氷に閉されたアラスカを旅して 人知に煩はされぬ純朴な別天地『報知新聞』1931年6月5日 < 済
 荒須賀雑記 1931年5月16日 < 済
 雑感 太平洋を渡つて、掲載紙未詳、1931年6月18日～<6回連載> < 済
 新聞界と、飛行界に出現した『野間清治]『羅府新報』1931年5月2、3、5～10、12、13日 < 済
 メキシコ小観『羅府新報』1931年7月1～3日 < 済
 モロトリアムと米国の景気『報知新聞』1931年8月7、8、11、12、14日 < 済
 アメリカの少年交通巡査、掲載紙未詳 1931年7月24日～<2回連載> [『日布時事』1931年8月21日に転載] < 済
 ぼくのコラム『北米時事』1931年6月29日～<連載> 【謙遜的な傲慢[「ぼくのコラム」]6月29日、矛盾のイエス6月30日、社会主義是非、日本字新聞7月2日、ニュースの誘惑7月3日、おけいの墓<9回連載>、米国勝手主義7月19日、商船と大学生7月17日、共産王公判7月20日、性の悩み7月22日、ボ市より7月23日、同胞の家庭7月25日、暑中紙上旅行、米国の新傾向、家庭の悲劇7月28日、飛行機の旅7月30日、南央州町7月31日、クレーター湖8月1日～連載、沿岸の三名所8月5日、レニア山の由来、新聞ストライキ、ロシアを覗く8月17日、マルクス主義8月<6回連載>、晩香波より8月25日～<2回連載>、英国の政変8月27日、僕の立場8月28日～<5回連載>[第4回から「マルクス主義批判」と改題]、鈴木氏に答ふ9月5日～<2回連載>、非難者に與ふ9月8日、階級闘争<3回連載>、宗教家に答ふ、何故狭量か、思想と世間9月16日、軍部外交9月17日、飛行機と性、幣原外相、日支衝突はどうなる[「ぼくのコラム」]、日支衝突観[「ぼくのコラム」]、故国を憂ふ[「ぼくのコラム」]、虫はどこ 9月25日～<2回連載>、枢密院、父と娘、強硬外交、大国民たれ、英国総選挙、第二世と日本、ドルと円、二人の死、女キリスト<5回連載>、満州の正体<3回連載>、非国民] < 済
 在米同胞唯一の成功者古屋翁裸にかへる アメリカ不況便り『報知新聞』1931年12月5日 < 済
 銀行の話、掲載紙未詳、[1931年12月]6回連載《一経済記者》 < 済
 銀行の話、掲載紙未詳、[1931年12月]上下2回《一経済記者》 < 済
 渋沢子爵、掲載紙未詳、[1931年11月11日渋沢栄一死去] < 済
 紐育、掲載紙未詳、1931年12月15日～<2回連載> < 済
 浜口氏の印象『北米時事』[1931年][1930.11.14 浜口首相遭難事件、1931.8. 26 死去] < 済
 米倉君を悼む『新自由主義』4・4、1931年4月30日 < 済
 出淵大使と語る—満州事変に就いて『北米時事』[1931年] < 済
 紐育雑信『北米時事』[1932年] < 済[1931.11.27 シアトルからニューヨークに向かう]
 紐育雑信『北米時事』[1932年]1月15日 < 済
 東部雑信『北米時事』[1932年]1月21日 < 済
 上海事件と東部、掲載紙未詳、1932年2月8日 < 済
 近頃二つの会『北米時事』[1932年]2月24日 < 済
 ボストンより『北米時事』[1932年]2月26日 < 済

Open trade Doopr, Japan's aim 『New York World-Telegram』 1932年6月30日<<RETSU KIYOSAWA>><済
 東部雑信『北米時事』[1932年]3月7日<済
 東部雑信『北米時事』[1932年]3月8日<済
 紐育より『北米時事』<2回連載><済
 左様なら『北米時事』[1932年]4月6日～<2回連載><済
 ハリスの墓『北米時事』1932年4月11日<済
 華府の桜『北米時事』1932年4月27日<済
 南部の黒人『北米時事』1932年<済
 米国のパリ『北米時事』1932年<済
 桑港から『北米時事』[1932年]4月30日<済
 十二機を出動せしめてバンクーバー市の歓迎 在留邦人は市民と合同挙式 [バンクーバー29日発] 『報知新聞』1931年5月
 1日<済
 米国未曾有の歓迎振り 可憐！日本人児童の朗らかな誇[シアトル30日発] 『報知新聞』1931年5月2日<済
 北太平洋横断飛行 いよいよ明後日に迫る[シアトル30日発] 『報知新聞』1931年5月2日<済
 再挙の快報を得て湧き立つシヤアトル[シアトル15日発] 『報知新聞』1931年5月17日<済
 報知日の丸号 初の試験飛行に優秀な性能を発揮[20日ニューヨーク発] 『報知新聞』1932年5月<済
 国際関係機微の折柄齎す親善の功績偉大 全米官民挙げて好意を寄す[ワシントン発] 『報知新聞[夕刊]』1932年1月12日
 <済
 大志空しき鳥人[4月1日ニューヨーク発] 『報知新聞』1932年4月<済
 米紙り大佐を激励[5日ロサンジェルス発] 『報知新聞』1932年6月<済
 桑港から『北米時事』1932年6月30日<済
 気になるのは日本の行衛だ『北米時事』[1932年<2回連載><<信濃太郎>><済
 東京より『北米時事』[1932年]9月22,23日<済
 東京雑信『北米時事』[1932年]10月8日<済
 東京より『北米時事』[1932年]10月27日～<2回連載><済
 大統領選挙戦 流れの真中で騎手をかへるか『帝国大学新聞』449、1932年10月17日<済
 大統領選挙を前に アメリカの経済政策『中外商業新報』1932年10月12,14日<<信濃太郎>><済
 米国の景気はどう動くか『中外商業新報』1932年10月18,19,21日<<無署名>><済
 勝ったルーズベルト 米国大統領選挙を顧る『中外商業新報』1932年11月10,11日<<一記者>><済
 国家経済機関の必要-各国における経済会議の状態-『中外商業新報』1932年11月7~11日<<信濃太郎>><済
 近づいた米国大統領選[「論説」] 『報知新聞』1932年10月7日<<無署名>><済
 ギャング事件の教訓[「論説」] 『報知新聞』1932年10月14日<<無署名>><済
 危機をはらむ市電[「論説」] 『報知新聞』1932年10月22日<<無署名>><済
 対外諸問題と国民的感情[「論説」] 『報知新聞』1932年11月1日<<無署名>><済
 教育に関する諸問題 数多き宿弊[「論説」] 『報知新聞』1932年11月5日<<無署名>><済
 米国大統領選挙の結果 今後の政治動向[「論説」] 『報知新聞』1932年11月10日<<無署名>><済
 『非常時』に対する心構へ[「論説」] 『報知新聞』1932年11月18日<<無署名>><済

**登録番号 127 : スクラップブック(新聞 1932年11月14日～1933年5月2日)[1932.11.14-
1933.6.23]**

東京より『北米時事』1932年11月14,15日<済
 伊香保より『北米時事』1932年12月21,22日<済
 東京雑信『北米時事』1933年1月12日<済
 東京より『北米時事』1932年12月10日<済
 東京より『北米時事』1933年1月4日<済
 国際経済を脅す戦債問題 結局どう解決する『中外商業新報』1932年12月14~18日<<一記者>><済
 米国に行はれる金本位制放棄説『中外商業新報』1933年1月31日、2月2日<<信濃太郎>><済
 世界経済会議と英米の態度-戦債問題の進展、掲載紙未詳、1933年1月31日<<無署名>><済
 世界経済会議 三人寄れば文殊の知恵-一会合好きの世界人- 『報知新聞』1933年1月11~15日<済

Japan not in emergency:World wants peace, says noted writer by RETSU KIYOSAWA special to the Japan times、
1933年6月4日<済

紛糾の戦債問題—世界景気の癌を語る—『報知新聞』1932年12月15日<済

行方不明の内田外交『三田新聞』293、1933年1月1日<済

新年の朝『北米時事』1933年2月1日<済

東京より『北米時事』1933年2月8日<済

アメリカの金本位—米国人自身はどう観てみる—『中外商業新報』1933年2月5、6日<一記者><済

東京雑信『北米時事』1933年3月4日<済

インフレにもがく 日本とアメリカの相違『中外商業新報』1933年2月19、20日<信濃太郎><済

何故に日本人はバツド・ルーザーか 西洋と日本・スポーツの相違『帝国大学新聞』469、1933年3月6日<済

米銀行組織の欠陥『中外商業新報』1933年3月9~12日<信濃太郎><済

不景気時代の産物—新しい物々交換組織—『中外商業新報』1933年2月16~18日<信濃太郎><済

政治的に見た米国の恐慌『中外商業新報』1933年3月27、29~31日のうち27、30日のみ<一記者><済

満洲国を聴く『報知新聞』1933年4月11~16日[3月30日、報知新聞社主催「満洲国を聞くの会」：駒井徳三、須崎治平、寺田四郎、広田四郎、鈴木宇一、倉辻明義、芦田均、青木得三、松山幸逸]<済

東京雑信『北米時事』1933年4月4日<済

外国新聞と日本新聞の実際批判座談会『日刊新聞時代』1933年4月19、20日[4月17日、日刊新聞時代社主催外国新聞座談会(於日比谷山水楼)：堀口九萬一、柳沢健、圓地興四松、中山優]<済

当人の云ひ分 才人の光栄を感じて一矢[「大波小波」]『都新聞』1933年3月27日<済

鈴木総裁と議会主義[「学苑」]『九州日報』1933年3月29日<済

尤もすぎる言葉[「時事小言」]『九州日報』1933年4月23日<済

理屈のない政治[「時事小言」]『九州日報』1933年5月8日<済

瀧川教授の問題[「時事小言」]『九州日報』1933年6月7日<済

雑信『北米時事』1933年6月9日<済

頭脳トラストを造れ[「時事小言」]『九州日報』1933年6月17日<済

東洋モンロー主義の行衛[「時事小言」]『九州日報』1933年6月25日<済

東京雑信『北米時事』1933年6月23日<済

米恐慌を解剖す『中外商業新報』1933年3月15~26日<済

ケーンズ教授の国際的新通貨論『中外商業新報』1933年5月2~4日<一記者><済

登録番号 120: スクラップブック(新聞 1933年~1935年)1933.6.29~1935.6.28

新聞記者の収入—外国の新聞と日本の新聞『報知内報』1933年7月5日<済

大統領を繞る頭脳トラスト 米政府の楽屋を語る『報知新聞』1933年6月29日~7月1日<済>

米大統領が握った産業統制権『中外商業新報』1933年7月20、22、23、25日<一記者><済>

転向したケーンズ教授『中外商業新報』1933年7月30、31日、8月1、2日<一記者><済

竹内君を悼む『北米時事』1933年7月22日<済

ケーンズ教授の転向論『中外商業新報』1933年8月20、22、23日<一記者><済

女の迷いと新聞[「学苑」]『九州日報』1933年8月9日<済

米当局の『対内戦争』と大統領の人気『中外商業新報』1933年8月29日<一記者><済

自殺と理屈[「時事小言」]『九州日報』1933年9月10日<済

理解と、大胆な感情の表示 排撃されたスチムソン主義『帝国大学新聞』493、1933年9月18日<済

明年度予算に盛られた非常時意識の検討 冷静に国際情勢を再認せよ『三田新聞』305、1933年10月6日<済

経済国家主義か経済国際主義か『中外商業新報』1933年9月15、16、19~22日<KK生>【1 引導を渡された英国自由主義、2 国際経済主義へ「国家」の闖入、3 経済に国家が闖入した理由、4 国際経済の優越性は解消しない、5 自給自足主義が国家主義へ、6 新国際主義は発足点にある】<済

経済恐慌の一因は大量生産 大産業組織と小工業の利害 仏国経済学者ジークフリードの説『中外商業新報』1933年9月28、29日<KK生><済

米で流行の新語—「国内国家主義」経済試験の当然の帰結『中外商業新報』1933年8月25日<一記者><済

東英二君を葬ふの記 和歌山県和歌の浦にて、掲載紙未詳、1933年9月8日<済[8月11日、葬儀に参列]

故国より『北米時事』1933年10月6日<済

U.S.-Japanese situation takes turn for better[1933年]◀KIYOSHI KIYOSAWA▶<済
 二世教育機関その責任者は果たして誰か 石井子問ひ合す『北米時事』1934年4月10、11日<済
 木村君世の中に出ず、掲載紙未詳、1934年5月18日<済
 二世教育機関 海外教育協会 その本質を検討す[「紙上議会」]『日布時事』1934年5月29、30日<済
 議会政治の将来と日本のフアッシズム『三田新聞』319、1934年6月22日<済
 東京雑信『北米時事』1934年6月5日<済
 米国のストライキ『報知新聞』1934年7月17～19日<済
 二世の教育に就て『日布時事』1934年7月7日<済
 東京雑信『北米時事』1934年7月16日<済
 講演旅行より『北米時事』1934年8月30、31日【1 姫路において 2 鳥取において 3 瀬戸内海にて 4 四国にて】<済
 松山と呉、掲載紙未詳、1934年8月28日<済
 広島より、掲載紙未詳、1934年9月11日<済
 山口県の一帯 下関、掲載紙未詳、1934年9月12日<済
 西日本一周記 下の関と門司、掲載紙未詳、<済
 福岡にて、掲載紙未詳、<済
 佐賀と佐世保、掲載紙未詳、<済
 雲仙から熊本へ、掲載紙未詳、<済
 熊本より鹿ゴ島へ、掲載紙未詳、<済
 日向の「祖国」宮崎市において 1934年9月22日<済
 別府と大分市、掲載紙未詳、1934年9月2?日<済
 瀬戸内海から京都へ、掲載紙未詳、上・下2回[1934年9月2?日]<済
 奈良から津へ それから東京へ、掲載紙未詳、1934年9月28、29日<済
 旅を終へて(下)、掲載紙未詳、1934年10月18日<済
 日本全土の旅行を終へて『北米時事』1934年11月8、9日<済
 Will Genro end with Saionji? 『The Japan Times & Mail』1934年12月[日本重臣論(『経済往来』9-12、1934年12月1日)の英訳]
 Dr. Inazo Nitobe and Tojin Okichi 『The Japan Times & Mail』1934年12月1日[新渡戸博士とお吉(『国際知識』14-12、1934年12月1日)の英訳]<済
 軍縮会議と各国の立場 本能に根ざす戦争と理性に根ざす平和心『函館日日新聞』1935年1月1日<済
 子供は田園の中に健康第一主義 神経質でなく線の太い人間を『新愛知』1935年1月24日◀清澤綾子▶
 北海道と東北 北海道にて(上)1934年10月9日<済
 朝日新聞論、掲載紙・掲載年月日未詳<済
 米国の太平洋政策『報知新聞[夕刊]』1935年1月12、13、15日<済
 新年筆初め『北米時事』1935年2月5、6日<済
 南支那を巡りて『報知新聞』1935年2月26～28日、3月1～5日<済
 台湾より『北米時事』1935年2月23、24日<済
 大衆を目標とする対支政策が必要だ[談]、掲載紙未詳、1935年2月14日<済
 台湾一巡記『北米時事』1935年3月5～8日<済
 台中より(1)(2)、掲載紙未詳、1935年3月1、2日<済
 台北より、掲載紙未詳、1935年2月27日<済
 教育の国有化『報知新聞』1935年5月3～5日<済
 「台湾松」と日本人の特質『一橋新聞』206、1935年4月17日<済
 アメリカの婦人界[「ラヂオ 婦人講座 世界の婦人界を語る(三)」]『報知新聞』1935年3月22日<済
 北部の温泉地より 北投にて、掲載紙未詳、1935年2月28日<済
 Japan ten years from now 『The Japan Times & Mail』1935年5月◀RETSU KIYOSAWA▶[十年後の国際的地位(『経済往来』10-5、1935年5月1日)の英訳]
 日支問題・其の他に就て[「社会時評」]『三田新聞』335、1935年6月28日<済

登録番号 42: スクラップブック(新聞記事の収集、1935年～1938年)1935.8.30-1938.7.5

- 東京より『北米時事』1935年8月30日<済
日本で見た外国人の不敬と侮日(一)、掲載紙未詳、1935年9月19日<済
日本より(上)『北米時事』1935年10月2日<済
斎田愛子嬢の独唱会、掲載紙未詳、1935年11月2日<済
ハワイ邦人の役割『日布時事』1935年10月22日<済
Unique Solution of Pacific Problems offered by Writer『The Japan Times & Mail』1935年10月29～31日<<Retsu Kiyosawa>><済
新隣邦比島を解剖す(中)(下)『報知新聞』1935年11月15、16日<済
いまの世の中 カナダ二世娘の歌姫『大陸日報』1936年1月1日<済
新年雑記、掲載紙未詳、1936年1月<済
岐路に立つ米国の東洋政策『早稲田大学新聞』30、1936年2月12日<済
軍縮会議を批判する『三田新聞』345、1936年1月3日<済
伊東より、掲載紙未詳、1936年1月11日<済
Redistribution of Colonies『The Japan Times & Mail』1936年2月1、2日<<Retsu K. Kiyosawa>><済
帝都反乱事件の四日間『北米時事』1936年3月24日<済
東京より(上)『北米時事』1936年4月9日<済
大阪より『北米時事』1936年4月11日<済
東京雑信『北米時事』1936年4月<済
東京より『北米時事』1936年5月25日<済
[小学校を卒業してさう遅くない頃だった]掲載誌未詳、1936年
[「往復葉書・名士回答 近頃非常に『心打たれた事』と『癪に障つた事』」]『話』3-11、1935年11月1日
日本ファシズムの進展『三田新聞』354、1936年6月19日<済
帝都の大不祥事『北米時事』1936年3月27日<済
二世の会合、掲載紙未詳、1936年6月18日<済
有田外相の印象(上)(1936年5月18日)、掲載紙未詳<済
管理と収賄『北米時事』1936年7月9日<済
東京雑信『北米時事』1936年8月4日<済
「夜明け前」印象 清沢泷氏の感想、掲載紙未詳、[1936年]<済
不親切な店 石橋氏の時計店の記事から『中外商業新報』1936年8月13日<済
東京より(上)『北米時事』1936年9月2日<済
国際孤立打開への道—成都問題批判—『三田新聞』357、1936年9月14日<済
本社主催外交問題座談会『早稲田大学新聞』55、1936年11月18日[座談会: 杉森孝次郎、太田宇之助、鹿島守之助、河野密、鈴木東民、松本忠雄]<済
長谷川如是閑、馬場恒吾を勅選にせよ、掲載紙未詳、1936年12月1日<済
輸出品としてのファシズム[「快文書」]『政治教育』1936年12月3日<済
広い世界に向つて知識の窓を開け女流小説家の登場を殖し世話女房型を捨てよ[婦人雑誌(新年号総評)]『東京朝日新聞』1936年12月24日<<黒法師>>[本文中に清沢への言及がある]
非常時人物風景 踊る人踊らされる人 ずらりと並んだ時代の寵児『中国新聞』1936年1月1日<済
お正月とお雑煮『羅府新報』1937年1月1日<済
ニューデールに就て 庶政一新のアメリカ的性格『三田新聞』367、1937年2月19日<済
先づ内交政策を[「われ若し外務大臣なりせば!!」]『日本学芸新聞』26、1937年4月1日<済
東京より『北米時事』1937年2月29日<済
現下の国際情勢と国民主義の史的考察『三田新聞』378、1937年9月13日<済
自由評論家清沢氏事変を斯く観る[談]『日布時事』1937年10月2日<済
無責任な米国外交『新世界朝日新聞』1937年10月10、11日<済
日本は各国の干渉を排して暴戻支那懲罰国民総動員で時局に当る [10月8日、日米新聞社主催時局大講演会講演概要(於りフォームド教会)]『日米[The Japanese American News]』1937年10月10～13日<済
清沢氏の時局講演 日支事変を繞つて 事変の真相より国際情勢に及ぶ[10月11日羅府新報主催講演「日支事変を繞りて」]『羅府新報』1937年10月12～16日<済
Only one door open to solve Japan population problem『新世界朝日新聞』1937年10月10日<<RETSU KIYOZAWA>><済

ロンドンの旅『北米時事』1937年10月19日<済
 ロンドンへの旅 秩父丸にて、掲載紙未詳、[1937年]<済
 米人の認識是正に組織的運動を起せ 第二世諸君と協力すべきだ [本社電報]、掲載紙未詳、1937年10月15日<済
 ペン・クラブ会議を訊く『報知新聞[夕刊]』1937年11月6、7、10、11、13日 [勝本清一郎との国際電話筆記]<済
 軽々しい意見―末次・松井の場合― [竹内夏積宛私信]、掲載紙未詳、1938年2月21、22日<済
 欧州政局の新動向 [19日パリ発]『報知新聞』1938年1月21日<済
 欧州の期待は大きい 東京大会は大規模なれ [16日ロンドン発]『報知新聞』1938年2月17日<済
 対日外交新段階へ 英政府我輿論の動向に対応 反日気勢も漸く下火 [11日ロンドン発]『報知新聞[夕刊]』1938年2月12日<済
 プラウグ今や死の街 全市に満つ不安・焦燥 チェコの事態重大化す [22日プラハ特電]『報知新聞[夕刊]』1938年5月23日<済
 米の輿論は政府反対 対日感情漸次緩和す 日貨排斥は実現不能 [17日ワシントン発]『報知新聞[夕刊]』1937年10月19日<済
 紐育の日貨排斥論 賛否相半の状態 [19日ニューヨーク発]『報知新聞[夕刊]』1937年10月21日<済
 “支那に講和を勧告せよ” 米の輿論にこの叫び 九国条約会議期待されず [18日ワシントン発]『報知新聞[夕刊]』1937年10月20日<済
 九国会議に持余され日本牽制も失敗 リトヴィノフ氏帰国の真相 [10日ブリュッセル発]『報知新聞』1937年11月11日<済
 反日の輿論に押され英国政府苦境に立つ 連盟至上主義今や崩壊 [5日ロンドン発]『報知新聞[夕刊]』1937年11月7日<済
 ドイツでの大事件 ヒーゲルの出席 [ベルリン24日発]『報知新聞[夕刊]』1937年11月26日<済
 支那代表影薄し英米も至つて消極的 九国会議 [8日ブリュッセル発]『報知新聞』1937年11月9日<済
 九国会議遂に失敗の終幕 伊代表の反対押切り骨抜き宣言漸く成立 北欧三国は断乎棄権 [15日ブリュッセル発]『報知新聞[夕刊]』1937年11月17日<済
 日本の立場に同情 (デンマーク代表談) [15日ブリュッセル発]『報知新聞[夕刊]』1937年11月17日<済
 防共協定真価絶大 岐路に立つ英外交 イーデン外相辞職せん [18日ベルリン発]『報知新聞[夕刊]』1937年11月20日<済
 会議失敗の非難回避 米代表愈引揚げ 九国会議けふ終焉総会 [23日ブリュッセル発]『報知新聞[夕刊]』1937年11月25日<済
 成功を確信せねば調停に乗り出さぬ [26日ドイツ外務省新聞部長との会見、ベルリン27日発]『報知新聞[夕刊]』1937年11月29日 [記事中に清沢との問答がある]
 対英相互牽制の利益 日伊完全に一致 伊の対日接近真意 [3日ローマ発]『報知新聞』1938年1月4日<済
 否定出来ぬ英米提携 海軍作戦の情報交換 建艦問題で飽迄日本利用 [13日ロンドン発]『報知新聞』1938年2月14日<済
 Anglo-Japanese Relations : A Plea for better understanding 『The Times』1937年12月10日<済
 Pressure of Japan's Growing Population : Basic Cause of Her "Explosion" 『The Manchester Guardian』1938年2月26日<済
 Stalin's despotism ; A Japanese on the "Asiatic" explanation 『The Manchester Guardian』1938年4月5日<済
 Population pressure forces Japan to seek expansion in Asia, noted journalist says; Retsu Kiyozawa will seek U.S. opinions on present trip 『日米[The Japanese American News]』1937年10月10日 <<RETSU KIYOZAWA>> <済
 ペン倶楽部とソ連の問題―質問者に答ふ― [「文芸」]『都新聞』1938年1月21日<済
 テーブルスピーチと婦人の肌着、掲載紙未詳、[1938年]<済
 英独の相撲 体力第一主義に転換 清沢冽氏土産話 [談]『上海日報[夕刊]』1938年7月2日<済
 文化機関要塞化で反駁 [談]『報知新聞』1938年7月5日<済

登録番号 128 : スクラップブック「清澤記事 1938 年～1942 年」 [1938.7～1942.12.20]

世界を旅しての印象[ラジオ講演]、掲載紙未詳、[1938 年 7 月] < 済
世界を旅しての印象[ラジオ講演]、掲載紙未詳、[1938 年 7 月] < 済
清沢冽氏に滞欧の印象を訊く[談話筆記]『三田新聞』397、1938 年 8 月 15 日 < 済
山中湖畔の物価[「三角点」]『東京日日新聞』1938 年 9 月 7 日 < 済
宇垣外交に就てー外交常識の問題ー[10 月 5 日第 6 回ジャーナリスト講演会(於三田新館 33 番教室)]、掲載紙未詳、1935 年 10 月 10 日 < 済
太平洋時代来る『太平洋旬報』1938 年 10 月 1 日 < 済
国民的良心が問題[インタビュー取材「新聞界の元老に聴く十二」]、掲載紙未詳、1938 年 9 月 3 日 < 済
先づ国策から、掲載紙未詳、[1938 年]1 月 17 日 < 済
岡山行き『北米時事』1938 年 11 月 11 日 < 済
熱海より『北米時事』1939 年 2 月 2、3 日 < 済
官営事業の能率『報知新聞』1939 年 1 月 2 日 < 済
双葉山と鼻肩客[「時事断想」]『報知新聞[日曜夕刊]』1939 年 1 月 23 日 < 済
『総親和』の徹底[「時事断想」]『報知新聞[日曜夕刊]』1939 年 2 月 13 日 < 済
具体策を論議せよ 抽象論が示す頭脳と政策の貧困 議会に望む[「中外週評」]『中外商業新報』1939 年 2 月 20 日 < 済
『願望的考え方』の危険[「中外週評」]『中外商業新報』1939 年 3 月 13 日 < 済
東大肅学の後の問題『東洋経済だより』3 月号、1939 年 3 月 15 日 < 済
膨張するドイツ[「特輯ハーゲンクロイツ翻へるはいづこ?」]『名古屋新聞』1939 年 3 月 26 日 < 済
チェッコ問題の後に来るもの[「京日時評」]『京城日報』1939 年 3 月 23、24 日 < 済
精勤と公衆道徳[「時事断想」]『報知新聞[日曜夕刊]』1939 年 4 月 24 日 < 済
ヒトラーの外交政策ー欧州の状況と各国の動向『三田新聞』411、1939 年 3 月 31 日 < 済
軟弱外交の弁[「中外週評」]『中外商業新報』1939 年 4 月 17 日 < 済
『夏期時間法』の創設 電力節約の一方法としての日光利用法[「中外週評」]『中外商業新報』1939 年 5 月 29 日 < 済
日本より『北米時事』1939 年 5 月 2 日 < 済
事変と外交 建設的・具体的に考慮せよ『日本学芸新聞』65、1939 年 4 月 5 日 < 済
欧州不穏の内幕『新愛知[夕刊]』1939 年 4 月 20～23、25、26 日 < 済
欧州大戦起らば? 日本への影響如何『読売新聞[夕刊]』1939 年 4 月 25 日 < 済
世界に於ける官僚の型 各行政官の官僚と事務官の官僚に『三田新聞』415、1939 年 5 月 25 日 < 済
アメリカ文化の将来性 アメリカは世界文化の温室である[「特輯 世界は動く」]『三田新聞』417、1939 年 6 月 25 日 < 済
欧米を一巡して[「本紙改題五十周年記念講演」]『秋田魁新報』1939 年 7 月 6～10 日 < 済
秋田を旅して[「時事断想」]『報知新聞』1939 年 7 月 3 日 < 済
日英会談の現状と解剖、掲載紙未詳、1939 年 7 月 26 日 < 済
形式主義、消極主義を排す[「週間評論」]『秋田魁新報』1939 年 7 月 17 日 < 済
地方的自尊精神の必要[「週間評論」]『秋田魁新報』1939 年 8 月 8 日 < 済
阿部内閣と閣員補充[「週間評論」]『秋田魁新報』1939 年 12 月 4 日 < 済
欧州動乱の展望[談]『日本農業新聞』1939 年 9 月 7 日～<2 回> < 済
英仏勝たば独逸勝たば 欧州各国は疲労 我が国際関係愈々多端『河北新報』1940 年 1 月 5 日 < 済
皇紀二六〇〇年代の特徴 経済機構の質的变化[「週間評論」]『秋田魁新報』1940 年 1 月 8 日 < 済
議会再開と時局批判[「週間評論」]『秋田魁新報』1940 年 1 月 29 日 < 済
有田声明の重要性 蘭領印度問題とその批判[「週間評論」]『秋田魁新報』1940 年 4 月 22 日 < 済
イタリ参戦と欧州大戦 日本の不介入問題を如何にすべき[「週間評論」]『秋田魁新報』1940 年 6 月 17 日 < 済
左してパリを攻め前進して倫敦へ 奇略縦横の独軍攻勢[「週間評論」]『中国新聞』1940 年 5 月 19 日 < 済
日米国交調整の前途『新愛知[夕刊]』1939 年 11 月 1～3 日【通商条約廃棄の真意、米国の動向、英米は一体】 < 済
政治とイデオロギー 戦争武器としての弱体性[「特輯“政治”」]『三田新聞』428、1940 年 1 月 25 日 < 済
欧州戦争と支那事変[「中外週評」]『中外商業新報』1939 年 9 月 11 日 < 済
ヒトラーと戦争責任[「中外週評」]『中外商業新報』1939 年 10 月 23 日 < 済
新体制と太平洋[談]『名古屋新聞』1940 年 11 月 26 日 < 済
彼が東洋の地歩は別荘みたいだよ 外交評論家清澤氏の痛論[談「今に吠え面搔くな恐々と虎の尾を踏む英国」]『満州日日新聞』1940 年 8 月 6 日 < 済

英の報復手段は犬糞の火遊び[談]『新京日日新聞』1940年8月7日

ロシヤファシストを語る 聴けロシアの声を 第四インターとは結ばず 清沢氏らとの会談『哈爾濱日日新聞』1940年8月15日[8月14日懇談会(於ヤマトホテル): 田沢義輔、K.B.ロザエフスキー] <済

東京雑信『北米時事』1940年4月10、13日 <済

日本便り 満州国での雑感(一)(二)『北米時事』1940年10月29、30日 <済

日本便り 日独伊三国同盟(二)『北米時事』1940年10月29日 <済

日本便り 日本の国際関係(一)(二)(三)『北米時事』1940年11月7~9日 <済

戦時下外交政策の特異性 国際関係調整の困難性・可変性『三田新聞』449、1941年1月1日 <済

日米もし戦はゞ『名古屋新聞』1941年1月1、2、4、5~9日[12月18日座談会(於星ヶ丘茶寮): 山本英輔、匝瑳胤次、松永寿雄、高瀬五郎、秋山邦雄、富永亀太郎、前原光雄、三浦条治、菅沼智] <済

日米関係は如何なる『羅府新報』1941年1月11日

アメリカに関する最近の翻訳書『日本学芸新聞』104、1941年3月10日

東京だより、掲載紙未詳、1941年4月2日 <済

老人か青年か[時観]『河北新報[夕刊]』1941年5月13日 <済

欧州弱小国の恐怖『読売新聞』1940年4月16日 <済

日本だより 老人と青年、掲載紙未詳、1941年5月31日 <済

炉辺談話から観た参戦問題『北米時事』1941年6月21日 <済

大決戦の機迫る『新愛知』1940年5月13~16日 <済

近衛公への信頼 新内閣成立の条件[時局評論]『函館新聞』1941年7月27日 <済

敵は寧ろ米国[11月16、17日(情報部主催文化週間第1、2日)講演「大東亜戦争と世界大戦」概要]、掲載紙未詳、1940年11月 <済

新党に対する課題[「月曜評論」]、掲載紙未詳、1940年7月15日 <済

幸運の外交家松岡[「月曜評論」]『北国毎日新聞』1941年4月21日 <済

U.S.-Japan diplomatic relations[「View and Reviews」]『Japan times & advertiser[夕刊]』1941年11月[日米外交七十年『改造』23-21、1941年11月1日の英訳]

鮮・満を旅行して[「月曜評論」]『函館新聞』1940年8月12日 <済

新体制に熱願[「週刊評論」]『京都日出新聞』1940年9月9日 <済

日独伊同盟の意味 いかんこれに備ふべき『中国新聞』1940年10月7日 <済

政治と産業人 本社主催選良座談会、掲載紙未詳、1941年?月9日 <済

新体制とは何だ! -否定的消極的主義を排す- [「週間評論」]『京城日報』1940年11月2日 <済

翼賛会と新生活運動[「月曜評論」]『北国毎日新聞』1940年12月2日 <済

日米問題の打開[「東条内閣の課題」]『合同新聞』1941年10月26、27日日 <済

商業主義から勝敗主義への移行『三田新聞』471、1941年10月29日 <済

国際情勢と政治 日米衝突せば長期戦[「週間評論」]、掲載紙未詳、1941年1月27日頃 <済

議会の翼賛会論議-翼賛会の行くべき途-[「時局評論」]『秋田魁新報』1941年2月21日 <済

国際関係は急転せず“日独伊対英米の対抗激化せん”[「時局評論」]『秋田魁新報』1941年3月22日 <済

楽観は禁物だ 清沢瀧氏世界の情勢を語る『新潟日日新聞』1942年3月24日 <済

南の蘭領北のソ連 吉沢使節の引揚げ問題[「時局評論」]『秋田魁新報』1941年6月23日 <済

太平洋争覇の意義、掲載紙未詳、1942年1月2日 <済

英首相の恫喝と注目さるゝ日米会談 対日包圍陣強化目立つ[「週間国際情勢」]『中外商業新報』1941年11月16日 <済

和平説と欧州戦の結末『北海タイムス』1941年4月29日、5月1日 <済

ヘス氏の失踪 全世界を驚かす[「時局評論」]『函館新聞』1941年5月19日 <済

四巨頭の握る和戦の鍵『三田新聞』478、1942年1月1日 <済

ルーズヴェルトとチャーチル 今こそ醒めた迷夢理想主義者と現実主義者『河北新報』1942年1月2日 <済

米大統領の炉辺談話(中・下)『新愛知』1942年5月31日、6月1日 <済

東亜共栄圏の課題(上)(下)『中外商業新報』1942年1月18、19日 <済

芦田均著「第二次世界大戦前史」客観的叙述による力作[「書評」]『三田新聞』491、1942年6月17日 <済

東亜戦争の見透し[「月曜論策」]『日刊工業新聞』1942年1月29日 <済

アメリカ人に与ふ[「文化」]、掲載紙未詳、1942年12月20日 <済

井野代議士に望む[「新産業代表に懇ふ」]、掲載紙未詳、1942年5月 <済

登録番号 129 : スクラップブック(論説 1933年2月3日～1939年1月29日)[『報知新聞』論説 1932.12.10-1939.1.25]

排撃的態度を排す[「論説」]『報知新聞』1932年12月10日<無署名><済
感心せぬ思想 対策委員会 政府の誠意如何[「論説」]『報知新聞』1933年4月21日<無署名><済
日本婦人の自己主張[「論説」]『報知新聞』1932年12月6日<無署名><済
社会犯罪と景気 恵まれざる階級[「論説」]『報知新聞』1933年2月3日<無署名><済
米国の新東洋政策如何[「論説」]『報知新聞』1933年2月10日<無署名><済
所謂不良狩り 自由を尊重せよ[「論説」]『報知新聞』1933年2月22日<無署名><済
討議的精神の涵養 教育家に望む[「論説」]『報知新聞』1933年2月25日<無署名><済
無計画の都市 ショウ翁の苦言[「論説」]『報知新聞』1933年3月10日<無署名><済
決意や覚悟だけでは不足 建設的態度を求む[「論説」]『報知新聞』1933年3月24日<無署名><済
日米動くべき時 太平洋の安全感増進の必要[「論説」]『報知新聞』1933年3月31日<無署名><済
警察官と民衆[「論説」]『報知新聞』1933年4月7日<無署名><済
ワシントン会議の重大性[「論説」]『報知新聞』1933年4月14日<無署名><済
松岡全権を迎ふ[「論説」]『報知新聞』1933年4月27日<無署名><済
京大対文部省の問題[「論説」]『報知新聞』1933年5月26日<無署名><済>
共産党巨頭への転向[「論説」]『報知新聞』1933年6月17日<無署名><済>
婦人の警官を新設せよ 最近の事件を觀て[「論説」]『報知新聞』1933年6月23日<無署名><済>
独裁政治の流行[「論説」]『報知新聞』1933年5月12日<無署名><済>
女子の哀話[「論説」]『報知新聞』1933年6月9日<無署名><済>
映画の児童に及ぼす影響 これを利用せよ[「論説」]『報知新聞』1933年6月30日<無署名><済>
女性よ、強くあれ 社会の一欠陥[「論説」]『報知新聞』1933年7月7日<無署名><済>
社会の新負債[「論説」]『報知新聞』1933年7月14日<無署名><済>
思想対策と当局の誠意[「論説」]『報知新聞』1933年7月21日<無署名><済>
自由討議的教育の必要[「論説」]『報知新聞』1933年1月5日<無署名><済
五・一五事件と左翼思想[「論説」]『報知新聞』1933年7月28日<無署名><済>
政局の安定と当局の勇氣[「論説」]『報知新聞』1933年8月4日<無署名><済>
婦人の家出と家庭の関係[「論説」]『報知新聞』1933年8月11日<無署名><済>
若い女学生の近代的傾向[「論説」]『報知新聞』1933年8月19日<無署名><済>
外務省の対外宣伝の計画[「論説」]『報知新聞』1933年8月25日<無署名><済>
大震災十周年[「論説」]『報知新聞』1933年9月1日<無署名><済>
ダンスホールの悲劇 男女交際と訓練[「論説」]『報知新聞』1933年9月13日<無署名><済>
転向と取締と善導と 根本を忘る勿れ[「論説」]『報知新聞』1933年9月20日<無署名><済>
建設的具体策出でよ[「論説」]『報知新聞』1933年9月22日<無署名><済>
抜本塞源より目前の問題[「論説」]『報知新聞』1933年9月29日<無署名><済>
対外言動を慎重にせよ 國際日本の地位[「論説」]『報知新聞』1933年10月13日<無署名><済>
スポーツ精神浄化のために[「論説」]『報知新聞』1933年10月27日<無署名><済>
富豪の寄付と公益事業[「論説」]『報知新聞』1933年11月3日<無署名><済
現内閣と言論 自由の問題 首相内相に望む[「論説」]『報知新聞』1933年11月10日<無署名><済
言論受難時代 再び政府に望む[「論説」]『報知新聞』1933年11月17日<無署名><済
近頃の有閑マダム問題 男女道德の不正[「論説」]『報知新聞』1933年11月25日<無署名><済
社会公共心の統制[「論説」]『報知新聞』1934年1月12日<無署名><済
米国の邦人拘引事件 神経過敏を戒む[「論説」]『報知新聞』1934年1月19日<無署名><済
教育界の醜聞と社会的訓練[「論説」]『報知新聞』1933年12月16日<無署名><済>
今期議会の出足よし 建設的批判の要[「論説」]『報知新聞』1934年1月26日<無署名><済>
国論統一に対する疑問 両党懇談の機に[「論説」]『報知新聞』1933年12月22日<無署名><済>
輸出粗悪品を制限せよ 関税障壁と日本[「論説」]『報知新聞』1933年12月29日<無署名><済>
議会調査会より得る教訓[「論説」]『報知新聞』1934年2月23日<無署名><済>
結婚を冒険の具とする傾向[「論説」]『報知新聞』1934年3月2日<無署名><済
暴露戦術と摘発者の責任[「論説」]『報知新聞』1934年3月9日<無署名><済

問題頻発の警察官[「論説」]『報知新聞』1934年2月9日<<無署名>><済>
華族の前に横はる問題 華族会館六十年[「論説」]『報知新聞』1934年6月1日<<無署名>><済>
不祥事続出の教育界[「論説」]『報知新聞』1933年12月2日<<無署名>><済>
国内問題に専念せよ[「論説」]『報知新聞』1934年月日未詳<<無署名>><済>
公娼廃止に一步進む[「論説」]『報知新聞』1934年3月16日<<無署名>><済>
函館大火の善後処置 復興計画を急げ[「論説」]『報知新聞』1934年3月23日<<無署名>><済>
官僚や専門家の世界に墮す 文相や枢密顧問の人選について[「論説」]『報知新聞』1934年3月30日<<無署名>><済>
人心一新への発足 斎藤内閣の今後[「論説」]『報知新聞』1934年4月6日<<無署名>><済>
役人万能の傾向 民間団体の吏臭[「論説」]『報知新聞』1934年4月21日<<無署名>><済>
国内問題への転換 生活の二方面[「論説」]『報知新聞』1934年5月7日<<無署名>><済>
芥捨て注意の運動を起せ 青年会に望む[「論説」]『報知新聞』1934年6月22日<<無署名>><済>
部分主義の弊害を矯める道[「論説」]『報知新聞』1934年6月8日<<無署名>><済>
是々非々とは何ぞや/北陸の水害[「論説」]『報知新聞』1934年7月13日<<無署名>><済>
干渉好き役人心理[「論説」]『報知新聞』1934年7月20日<<無署名>><済>
壘国首相の横死 その影響を懼る[「論説」]『報知新聞』1934年7月27日<<無署名>><済>
伝へらるゝ宗教復興熱 内容と危険性[「論説」]『報知新聞』1934年8月11日<<無署名>><済>
結核退治計画の実現を望む[「論説」]『報知新聞』1934年8月23日<<無署名>><済>
外客招致に関する一問題 スパイ的に観る弊[「論説」]『報知新聞』1934年8月31日<<無署名>><済>
女性が家庭に帰る運動 寧ろ社会的なれ[「論説」]『報知新聞』1934年9月5日<<無署名>><済>
米国の排日的農民暴動[「論説」]『報知新聞』1934年9月21日<<無署名>><済>
乃木家断絶と華族問題[「論説」]『報知新聞』1934年9月28日<<無署名>><済>
在満機構問題紛糾の教訓 建設的批判の要[「論説」]『報知新聞』1934年10月19日<<無署名>><済>
国策を根本より検討せよ 臨時議会へ期待[「論説」]『報知新聞』1934年10月6日<<無署名>><済>
軍縮会議と国民の気持[「論説」]『報知新聞』1934年10月26日<<無署名>><済>
国民健康保険の実現を望む[「論説」]『報知新聞』1934年10月26日<<無署名>><済>
娘を売る問題 東北の凶作地と道徳問題[「論説」]『報知新聞』1934年11月3日<<無署名>><済>
議会と言論自由の問題 自ら軽んず勿れ[「論説」]『報知新聞』1934年11月30日<<無署名>><済>
検挙の網に引かゝつた邪教 根本は教育改善[「論説」]『報知新聞』1934年月日未詳<<無署名>><済>
暴露戦術の頻出と傾向[「論説」]『報知新聞』1935年3月1日<<無署名>><済>
小学児童への弁当配給[「論説」]『報知新聞』1935年3月8日<<無署名>><済>
現代社会の明朗な一面[「論説」]『報知新聞』1935年3月16日<<無署名>><済>
台湾自治案の内容[「論説」]『報知新聞』1935年2月23日<<無署名>><済>
教育界に於る結核の問題[「論説」]『報知新聞』1935年3月30日<<無署名>><済>
桜の時期と公共道徳[「論説」]『報知新聞』1935年4月12日<<無署名>><済>
他を誣ひた場合の責任[「論説」]『報知新聞』1935年4月26日<<無署名>><済>
丹後の節句と児童愛護 死亡率で三等国[「論説」]『報知新聞』1935年5月3日<<無署名>><済>
審議会は何を審議する[「論説」]『報知新聞』1935年5月10日<<無署名>><済>
寧ろ社会問題 良家の家出事件[「論説」]『報知新聞』1935年5月24日<<無署名>><済>
公娼廃止の底に横はるもの[「論説」]『報知新聞』1935年6月7日<<無署名>><済>
殺人容疑者の釈放と名誉[「論説」]『報知新聞』1935年6月14日<<無署名>><済>
鉄道省の奮発 内田鉄相に望む[「論説」]『報知新聞』1935年6月22日<<無署名>><済>
日本文化進出への注意 歌舞伎と外国人[「論説」]『報知新聞』1935年6月28日<<無署名>><済>
人口の増加と死亡率[「論説」]『報知新聞』1935年7月6日<<無署名>><済>
自動車事故とその改善策[「論説」]『報知新聞』1935年7月13日<<無署名>><済>
官吏の天降り[「論説」]『報知新聞』1935年7月19日<<無署名>><済>
蚊を絶滅せよ 眠り病と下水[「論説」]『報知新聞』1935年8月30日<<無署名>><済>
精神と外容との連関[「論説」]『報知新聞』1935年7月31日<<無署名>><済>
栄養食を摂取する必要 刑務所の実験[「論説」]『報知新聞』1935年8月3日<<無署名>><済>
児童に対する設備の欠乏 文教当局に望む[「論説」]『報知新聞』1935年8月9日<<無署名>><済>
女性の犯罪の増加[「論説」]『報知新聞』1935年8月17日<<無署名>><済>

警察への希望[「論説」]『報知新聞』1935年9月7日<無署名><済
暗殺の世界的流行 米国のそれと日本[「論説」]『報知新聞』1935年9月13日<無署名><済
比島聯邦の巢立を祝ふ 大統領の決定と今後の問題[「論説」]『報知新聞』1935年9月21日<無署名><済
教育と愛国心 英国での一問題[「論説」]『報知新聞』1935年9月27日<無署名><済
婦人の洋服と日本食[「論説」]『報知新聞』1935年10月11日<無署名><済
社会事業家の待遇と基金[「論説」]『報知新聞』1935年10月26日<無署名><済
自動車自転車と交通事故[「論説」]『報知新聞』1935年11月1日<無署名><済
映画の影響と外国もの[「論説」]『報知新聞』1935年11月8日<無署名><済
小学校の級長選挙[「論説」]『報知新聞』1935年月日未詳<無署名><済
青少年の健康の状態 対外か国内整備か[「論説」]『報知新聞』1935年11月22日<無署名><済
軍事予算をめぐる論争[「論説」]『報知新聞』1935年11月29日<無署名><済
質屋取締規則の改正 規則改廃と時代[「論説」]『報知新聞』1935年12月6日<無署名><済
邪宗の氾濫と教育方針[「論説」]『報知新聞』1935年12月13日<無署名><済
児童に栄養物を与へよ 歳末年始と少年[「論説」]『報知新聞』1935年12月28日<済
遭難の頻発と準備の必要[「論説」]『報知新聞』1936年1月10日<無署名><済
婦人の職業への進出[「論説」]『報知新聞』1936年1月18日<無署名><済
総選挙と学童 学校で説明せよ[「論説」]『報知新聞』1936年1月24日<無署名><済
不良娘の輩出と家庭[「論説」]『報知新聞』1936年1月31日<無署名><済
国論とは何ぞ 選挙からの教訓[「論説」]『報知新聞』1936年2月4日<無署名><済
選挙粛清と将来の対策 総選挙を顧みて[「論説」]『報知新聞』1936年2月21日<無署名><済
挙国一致の強力内閣に就て[「論説」]『報知新聞』1936年3月7日<無署名><済
邪教根絶の法 大本教の大弾圧[「論説」]『報知新聞』1936年3月14日<無署名><済
世の中を住みよくする運動[「論説」]『報知新聞』1936年3月21日<無署名><済
官吏の売込みを禁ぜよ 広田内閣に望む[「論説」]『報知新聞』1936年3月28日<無署名><済
文相の努力すべき方面[「論説」]『報知新聞』1936年4月18日<無署名><済
利子生活者の困惑 特別議会に望む[「論説」]『報知新聞』1936年4月24日<無署名><済
肺結核対策を如何にする 米国の好成绩[「論説」]『報知新聞』1936年5月2日<無署名><済
言論自由と政府の熱意[「論説」]『報知新聞』1936年5月8日<無署名><済
首相の心境と政策の問題[「論説」]『報知新聞』1936年5月15日<無署名><済
言論の自由と統制問題 議会向上の一法[「論説」]『報知新聞』1936年5月30日<無署名><済
現状打破と現状維持[「論説」]『報知新聞』1936年6月6日<無署名><済
義務教育延長と文相案[「論説」]『報知新聞』1936年6月19日<無署名><済
米国大統領戦の新傾向 政戦の幕開く[「論説」]『報知新聞』1936年6月27日<無署名><済
学校騒動の解決方法[「論説」]『報知新聞』1936年7月3日<無署名><済
重役の賞与と文相の寄付/ローマ字統一の無理[「論説」]『報知新聞』1936年7月17日<無署名><済
庶政一新の声と経済界の不安[「論説」]『報知新聞』1936年7月25日<無署名><済
図書館と文化 全村に普及せよ[「論説」]『報知新聞』1936年7月31日<無署名><済
少年保護の要 暑中休暇と労働[「論説」]『報知新聞』1936年8月19日<無署名><済
社会病患者の収容力不足[「論説」]『報知新聞』1936年8月28日<無署名><済
被疑者が無罪となる場合[「論説」]『報知新聞』1936年9月4日<無署名><済
首相の休養に同情せよ 大官の健康問題[「論説」]『報知新聞』1936年6月13日<無署名><済
邪教の頻出と教育の不備[「論説」]『報知新聞』1936年10月2日<無署名><済
言論の自由と統制の問題[「論説」]『報知新聞』1936年10月23日<無署名><済
勤労者階級と疾病保険[「論説」]『報知新聞』1936年10月30日<無署名><済
義務教育延長問題[「論説」]『報知新聞』1936年11月14日<無署名><済
文化貢献者を選び出す標準/増税と生活の不安[「論説」]『報知新聞』1936年11月30日<無署名><済
英国新帝陛下の御即位[「論説」]『報知新聞』1936年12月12日<無署名><済
本年度思想界の見透し 国民の決心次第[「論説」]『報知新聞』1937年1月8日<無署名><済
医学博士汎濫とその研究[「論説」]『報知新聞』1937年1月16日<無署名><済
庶政一新は目前の問題か[「論説」]『報知新聞』1937年2月19日<無署名><済

憂ふべき労働条件の低下[「論説」]『報知新聞』1937年4月7日<<無署名>><済
教育の延長と内容の改善[「論説」]『報知新聞』1937年4月10日<<無署名>><済
鉄道定期券の改正に就て[「論説」]『報知新聞』1937年4月16日<<無署名>><済
罷業の頻発と労働団体[「論説」]『報知新聞』1937年4月23日<<無署名>><済
言論の自由と統制[「論説」]『報知新聞』1937年5月14日<<無署名>><済
先づ政府の脚下から[「論説」]『報知新聞』1937年5月21日<<無署名>><済
米国大統領夫人の主張[「論説」]『報知新聞』1937年5月28日<<無署名>><済
閉店時間問題について[「論説」]『報知新聞』1937年6月16日<<無署名>><済
人口増加鈍化と死亡率[「論説」]『報知新聞』1937年6月25日<<無署名>><済
調査なき調査審議せぬ審議[「論説」]『報知新聞』1937年7月10日<<無署名>><済
試験地獄除去の方策[「論説」]『報知新聞』1937年7月17日<<無署名>><済
[1937年9月24日、国際ペン・クラブ理事会出席のため離日。1938年7月4日、帰国]
統制下の代用品研究[「論説」]『報知新聞』1938年8月20日<<済
町会の整備とその危険性[「論説」]『報知新聞』1938年9月24日<<済
官僚の事務と博覧会参加[「論説」]『報知新聞』1938年10月8日<<済
労働者にも慰安をドイツの施設[「論説」]『報知新聞』1938年10月15日<<済
在外機関を統制せよ[「論説」]『報知新聞』1938年月日未詳<<済
荒木文相に要望す[「論説」]『報知新聞』1938年10月29日<<済
門戸開放は相互的に[「論説」]『報知新聞』1938年11月5日<<済
日独文化協定の意義[「論説」]『報知新聞』1938年11月25日<<済
東洋の国際関係整調[「論説」]『報知新聞』1938年12月10日<<済
有田外相の対外的説明[「論説」]『報知新聞』1938年12月21日<<済
『計画外交』の必要[「論説」]『報知新聞』1938年12月28日<<済
警察と街頭の乞食群[「論説」]『報知新聞』1939年1月12日<<無署名>><済
職業能力調査に就て[「論説」]『報知新聞』1939年1月25日<<無署名>><済